

#### 総体予選 4 回戦

6月14日（日）総体予選 4 回戦である桐朋戦がありました。

6月14日 4回戦 高島 55 — 60 桐朋

序盤は拮抗した展開となるものの、第2Qに相手のミドルシュートがよく決まりじわじわと点差を離されます。さらに、第2Q終盤にはターンオーバーから連続失点を許してしまい、前半を終えて19-39と20点のリードを奪われます。

後半に入っても相手の3Pシュートが止められず最大23点ビハインドを追う展開。その中でも、必死にDFのプレッシャーを強め、スティールからの速攻が始めるなど徐々にリズムを取り戻し、第3Q終了時には37-51と点差を縮め、第4Qに望みをつなぎます。

第4Qも速い展開から得点を伸ばし、少しずつ点差を詰めると、ようやくアウトサイドのシュートも入り始め、残り1分を切ってついに55-58と1ゴールで追いつける点差まで追いつけます。しかし、同点を狙ったその後をオフェンスを決めることができず、万事休す。怒涛の追い上げもあと一歩届かず、5点差での敗戦となりました。

#### 取り組んできたことを否定しないでほしい

最後のミーティングで3年生に伝えた言葉です。

結果が出た時、自分たちの取り組みを肯定的にとらえることは簡単です。逆にうまく行かなかった時、悪かった部分を探してしまい、自分たちの取り組みを否定してしまうもの。チームが目標としていた東京都ベスト8の遙か手前で敗れてしまったわけですから、準備の段階から改善すべき部分があったこととは思います。

ただ、今年の3年生の「バスケットボールに取り組む姿勢」は素晴らしいものがあり、このチームの意識を大きく引き上げてくれたことに私はとても感謝しています。引退までの期間で幾度のピンチに見舞われても決して下を向くことなく、ひた向きに取り組む続ける姿に私の方が励まされることが少なくありませんでした。主力選手はもちろんですが、試合の出場機会が少ない選手も不満を見せず、チームのために一人ひとりが出来ることを全うしたという部分は私の長い高校バスケットボールとの関わりの中でも一番の代でした。

たとえ結果が思ったものでなくとも、取り組んできたことを否定しないで誇りに思っていてほしい。そしてそのことを次の目標に向けての糧にしてほしい。引退した3年生に強く伝えたい言葉です。

#### ここからの成果で示していく

残念ながら3年生の代で目指していた結果を手にすることはできませんでした。結果が出なければ、どれだけ過程のよさを伝えても説得力に欠けることは否めません。

ただ、3年生が作り上げたハードワークの文化、試合に出るプレーヤーも控えのメンバーも一丸となって戦う雰囲気もチームには残っていくものです。

その意味で2年生以下の新チームで「高島高校ここにあり」と誇れるような成果を出し、その時に引退した3年生のお陰だということを改めて確認し、伝えていきたいと考えています。

新チームでの活動が始まっています。その中でも3年生への感謝を忘れず、彼らの残したものの真価を示すためにも我々は日々、全力でバスケットボールに取り組まなくてはなりません。今回の敗戦にへこたれることなく、新たなチャレンジを続けていきます。